

## 南部みどり幼稚園

### 令和2年度学校自己評価結果報告書

#### 1. 本園の教育目標

本園の身近にある豊かな自然環境を通して、たくさんの「ふれあい」「出会い」を大切にし、物を大切にすること・やさしくすること・夢中になること・感動することそして愛することのできる子どもの育成を目指し、ひとりひとりを大切に自主性を尊重し、やる気を育てる幼児教育を目標とする。

1. 健康なからだと健康なこころを支える体力を持った子ども
2. 自分の力で最後まで考えたり創造したりする子ども
3. 友達と仲よく元気にあそべる子ども
4. 心豊かなやさしさと愛のある子ども
5. ことばを愛し、豊かな表現活動のできる子ども

#### 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

教育目標を継続して達成すべく、その充実に努める。特に、コロナ禍における保育・各行事の内容、取り組みについて検討をしていく。

#### 3. 評価項目の達成及び改善点

評価分類	評価結果	改善点
保育の計画性	A～C	<p>・全体での話し合いをよくして、計画や保育・行事などの流れや準備の共通理解は出来ているとおもわれる。クラスの活動においても、子どもたちが自主的になっているかももう一度見直し、検討する必要があると思う。</p> <p>コロナ禍での保育は、子どもたちにとっても満足の出来るものではなかったと思うので、遊びの中で十分に発散できるようにしていきたい。</p> <p>・コロナ禍で、行事運運営や日常の</p>

		<p>保育について、職員間で検討を重ね進めていくことが出来た。今後も、子どもたちのことを第一に考え、より良い保育のあり方を考えていくようにしたい。自身の反省点が十分に改善出来ていない。指導計画を見直ししながら、日々の目標をしっかりとっていくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年間を通して、行事等を含め計画を進めていたが、その場の展開に応じて環境等を構成していったり、年齢に合った保育をしているのか反省を次の保育にあまり活かせていなかった。変化の順応性が足りない。</li> </ul>
<p>保育の在り方・幼児への対応</p>	<p>A～C</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個の発達段階や性格など受け入れての保育を意識してやっているが、集団になった時、“集団”を優先してしまっている時があるので、個を大切にしながらの“集団”を意識出来るようにしたい。</li> <li>・コロナ禍では、幼児同士の関わりも本来のものではなかったと思う。新しい生活様式を取り入れた中で、健康で安全に過ごすことができるようにしていきたい。</li> <li>・個の姿を受け止め、一人ひとりに合った関わり、援助を心掛けているが、自身の余裕のなさから、子どもたちをせかせてしまうことがあるため、より見通しを持ち、保育を進めていくようにしたい。</li> <li>・言葉でまだ伝えられない気持ちを言語化するのは難しくトラブルが起きた際、見ていないと全くわからない部分があった。「個と集団」では、個の部分は、理解し、関わりは十分に</li> </ul>

		行われたが、集団との関わりはまだ視野を広く持ち、関わらなければならない。
教師としての資質の能力・良識・適正	A～B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とは、連絡ノートや送迎時に子どもたの気が付いた事や成長を出来るだけこまめに伝えるようにしている。日本の行事や日々のニュース、祝日に関する事など、子どもたちに分かりやすい言葉や絵本などを使って話すうにしている。</li> <li>・社会全体に目を向けたり、それを保育に活かしていくことが理想ではあるが、なかなか活かしきれていない。</li> <li>・送迎時や電話連絡等で、子どものことや、保育に関することを、日々伝えるよう心掛けている。伝えたいことを話す前に、自分の中で整理して、より簡潔に伝えられるよう努めていきたい。得た、新たな情報を保育に取り入れられるよう、心掛けていく。</li> <li>・保護者との信頼関係をつくる上でほとんどノートでのやりとりだったため、努めてはいたが、関係を作れたか判断が難しい。社会の出来事に関心を持っていたが、保育にあまり活かすことが出来なかった。</li> </ul>
保護者への対応	A～C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡ノートや電話、送迎時の会話で、子どもの様子は出来るだけ伝えるようにしているが、保育について自分の観点を伝えるのはもう少し努力が必要と感じた。</li> <li>・なかなか十分とは言えないが、送迎の際に直接伝えられるようにしたいと思っている。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳、クラスだよりの文章やまとめ方を工夫し、保護者が見て子どもの様子が分かりやすい内容に心掛けたい。</li> <li>・休園が多くあったため、個別懇談なかった。またクラスだよりの様子があまり表現れていなかった。保育について保護者に明確に伝えられていなかった。</li> </ul>
地域や自然や社会とのかかわり	A～B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒園児が気楽に立ち寄れるように心掛けている。時間がある時は話をするようにしている。自然は散歩に行き、触れられるようにはしているが頻度が少ない。</li> <li>・四季の移り変わり等、子どもちに伝えるようにしているが、地域の自然を取り入れて保育する處まで至っていない</li> <li>・豊かな自然に恵まれているので、より活用出来るうにする。散歩に出かける機会を増やしたい。</li> <li>・卒園児はほとんどわからないためあいさつ程度だった。また、コロナ禍ということもあり子育てセンターの役割りはほとんどされていなかった。</li> </ul>
研修と研究	A～B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員では、担任の枠を超えて子どもちの話をするようにしている。研修会については、コロナ禍ということもあったが、もう少しいろんな分野のものに参加出来たら思う。</li> <li>・コロナ禍で外部の人との情報館はなくなってしまったが、保育に活かせるものは取り入れていたいと思っている。</li> <li>・子どもちについての職員間の情報交換は密に行えていて、共通理解をもつ</li> </ul>

		<p>ことができている。コロナ禍で研究会が中止となってしまったが、保育雑誌等々様々な物から保育、教育への学びを深めてうようにしたい。</p> <p>・新採研修はほとんど中止になり、園内研修がほとんどであった。</p>
--	--	--

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合的な評価は「A～B」であることを確認した。

教職員一人一人が、自己点検・自己評価を自覚し、目標の達成に努力したが、さらに本園の教育目標を確固たるものにするため、各々が日常的に自己評価を行い、資質向上に努めることを共通の理解とした。

#### 5. 今後の取り組むべき課題

今後取り組むべき課題として、令和3度は次を重点課題とする。

令和2年度を総合的に検証、また反省する中で、継続して課題に取り組んでいく。

##### 「保育の計画性」

コロナ禍での新生活様式の中で、日々の保育の計画については、子どもの様子をしっかりと捉え、年間計画、月案と照らし合わせながらたてていく必要がある。教師間も横の連携も大切にしながら、計画を立てていく。

##### 「保育の在り方、幼児への対応」

子どもたち一人ひとりの育ちを考え、どのような援助・言葉掛けが良いか、他の職員とも相談しながら対応するようにし、危険予測や、子どもが起こすかもしれない次の行動を、もう少し考えられるようにしたい。

#### 6. 財務状況

子ども子育て支援新制度に移行し、財務状況は改善されてきてはいるが、園児の減少は一段と厳しい状況下にあるため、園の財政、職員の処遇改善等さらに厳しい努力をしなければならない。